石井英一君

流転行路に我仰ぎ見るるでんこうろのわれあおりみ

大いなる水海に月映ゆる
ホォォ 垣根は山河陽はおちてかきね さんが ひ 辿り着きし我がふるさとのため こめ雄き林を抜け出でて

ふるきよき 力強きふるさとに

龍のごとくに昇りゆく 不壊の哲い引き提げて はぐくまれし嗚呼我は

> 昔を偲ぶ此の我に しかれどもいつしか其れも身を移し

時の流れを感じつつ 今あたりを見渡せばいま

ものここに見て我想う 新しき世界の広がり新しき 「彼の哲い引き提げて

龍の雲は形くずし流れゆく ふと仰ぎ見る紅空に 若き力で昇りゆけ」